

ACCESS MAP 交通のご案内

[編集・発行] 横浜市立大学医学教育推進課 2024.04

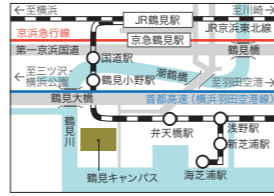
■ 舞岡キャンパス(木原生物学研究所)



- 理学部
- 生命ナノシステム科学研究科
[生命環境システム科学専攻]
- 木原生物学研究所

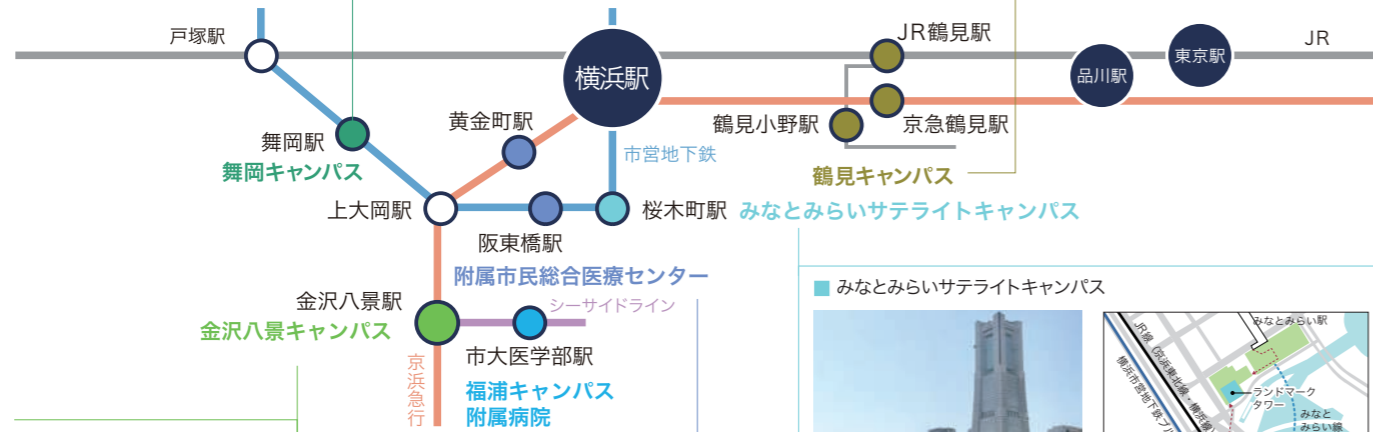
〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12
TEL.045-820-1900
●市営地下鉄「舞岡駅」下車徒歩10分

■ 鶴見キャンパス



- 理学部
- 生命医科学研究科
[生命医学専攻]

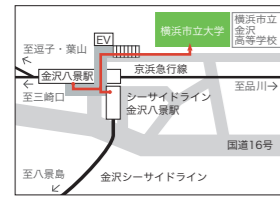
〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-7-29
TEL.045-508-7201, 7202
●JR京浜東北線「鶴見駅」東口および京浜急行「京急鶴見駅」前の8番バス乗り場から、川崎鶴見臨港バス鶴08系統「ふれーゆー」行きで約15分、「理研・市大大学院前」下車
●JR鶴見線「鶴見小野駅」下車徒歩15分



■ 金沢八景キャンパス



- 国際教養学部
- 国際商学部
- 理学部
- データサイエンス学部
- 医学部(医学科・看護学科) ※1年次
- 都市社会文化研究科
[都市社会文化専攻]
- 国際マネジメント研究科
[国際マネジメント専攻]
- 生命ナノシステム科学研究科
[物質システム科学専攻]
- 生命環境システム科学専攻
- データサイエンス研究科
[データサイエンス専攻]
- ヘルスデータサイエンス専攻



〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2
TEL.045-787-2311
●京浜急行「金沢八景駅」下車徒歩5分
●シーサイドライン「金沢八景駅」下車徒歩5分

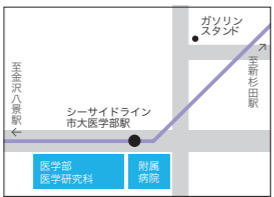
■ 福浦キャンパス



■ 附属病院



- 医学部(医学科・看護学科)
- 医学研究科 [医科学専攻][看護学専攻]
- 先端医学研究センター



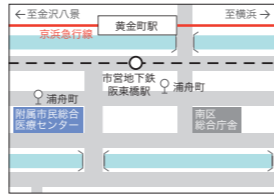
〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9
福浦キャンパス TEL.045-787-2511
附属病院 TEL.045-787-2800
●シーサイドライン「市大医学部駅」下車徒歩1分

■ みなとみらいサテライトキャンパス



〒220-0012 横浜市西区みなとみらい2-2-1
横浜ランドマークタワー7階
TEL.045-681-7560
●横浜高速鉄道みなとみらい線「みなとみらい駅」下車徒歩3分
●市営地下鉄「桜木町駅」下車徒歩5分
●JR京浜東北線・横浜線「桜木町駅」下車徒歩5分

■ 附属市民総合医療センター



〒232-0024 横浜南区浦舟町4-57 TEL.045-261-5656
●京浜急行「黄金町駅」下車徒歩10分 ●市営地下鉄「阪東橋駅」下車徒歩5分
●市営バス「浦舟町」下車徒歩1分



公立大学法人 横浜市立大学 大学院

2025年度 医学研究科 医科学専攻 研究科案内

YCU
横浜市立大学
YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

X @YCU_koho
LINE @yokoichi
Facebook YokohamaCityUniv
Instagram yokohama_city_university

〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦 3-9
tel: 045-787-2530 (医学研究科医科学専攻)
e-mail: igakuin@yokohama-cu.ac.jp
www.yokohama-cu.ac.jp



YCU
横浜市立大学
YOKOHAMA CITY UNIVERSITY



医科学は現在、基礎研究とその臨床応用・開発研究が最も盛んな科学分野の一つです。本医科学専攻が目指すことは、基礎研究から臨床研究へ、臨床現場から研究室への双方の視点を持ち、さらには医療が行われる社会とのつながりを俯瞰し、課題解決に向けて飽くなき努力を続けることのできる独創性と人間性の豊かな人材を育成することです。

DEAN'S MESSAGE



本学医学研究科では、病気のメカニズムを解明するための基礎医学研究、疾患の予防・治療につながる臨床医学研究、人々の健康を支える看護学研究など、医療分野の多様な領域で研究が進められています。さらに本学の研究は国内外の研究機関／研究者の方々との共同研究や情報・人材交流を通じて、グローバルに大きく展開しています。

「知の創造」という研究活動は、より質の高い健康と幸福を追求するいわゆる「ウェルビーイング」を実現する上での様々な課題の解決につながる重要な役割を果たします。私たちはこのような研究活動を通じて、社会に広く貢献することを目指しています。

現代の科学技術・情報科学の進歩の速さには驚くばかりです。医学の研究分野も同様です。このような状況下において、情報の受け手に留まるだけでなく、研究によって新たな知見を発見・創造し、この自らの手で生み出した独自の情報を発信するという体験が何よりも大切です。このことが同時に、科学リテラシーを高めるための貴重な機会にもなります。

本研究科は重要な使命として、皆さんが研究倫理を遵守しつつ、基礎医学、臨床医学、あるいは看護学における研究手法に習熟し、実践力を身につけて研究者として独り立ちできるように、親身にサポートしていきます。

医学研究科長 緒方 一博



医科学専攻
修士課程専攻長 井濱 容子

医科学専攻修士課程は、医学部医学科以外の大学を卒業され、医学を学ぶ意欲と探究心を持ち、医学研究を志す学生のために開かれた2年間のコースです。多様な生命現象に潜むメカニズムの本質的な理解を目指す生命医科学研究から、がん、神経疾患、自己免疫疾患などの難治疾患の病態形成機構の解明を目指した疾患研究まで、幅広く行われています。医学領域のエキスパートとして知識とスキルを活用できることを目標とし、実践的な研究活動に取り組みます。修了生は、博士課程に進学し研究を継続したり、国公立機関や民間企業の研究所などで研究開発に携わっています。また、医学領域における高い専門性を発揮して、グローバル社会で活躍できる人材を養成するために、英語でのプレゼンテーション能力向上を目的とした講義や、国際学会での発表や共同研究のための海外渡航を支援する「大学院生海外活動奨励制度」もあります。海が近く環境抜群な福浦キャンパスで共に研究に励みませんか？



医科学専攻
博士課程専攻長 光藤 健司

文部科学省から博士課程の目標として“研究者として自立して研究活動を行うに足る、又は高度の専門性が求められる社会の多様な方面で活躍し得る高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養う”との記載があります。本学の医科学専攻博士課程では医学に関する先進的、学術的な研究を推進し、高度の専門的知識、技術を備えた医学研究者、教育者を養成します。また、横浜市立大学は国際化を目指しており、国際的に通用する優れた研究者の育成にも力を入れています。そのため学内外でグローバル経験を積めるさまざまな取り組みを行っており、海外の教育研究機関・国際機関と連携しています。

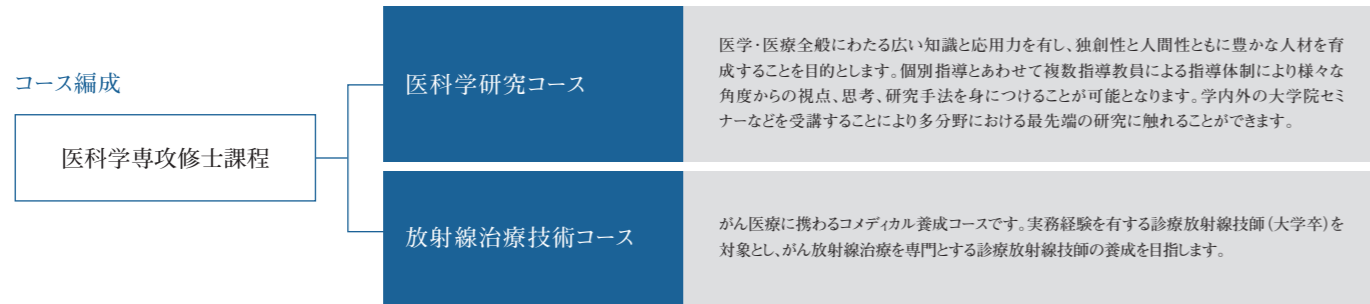
本専攻では、大学院生に正しい実験姿勢を身につけ、自立的に独創的な研究展開ができる能力が身につくよう、指導を行っています。横浜市立大学大学院医科学専攻で大学院生として研究をすることを期待しています。

医学研究科 医科学専攻

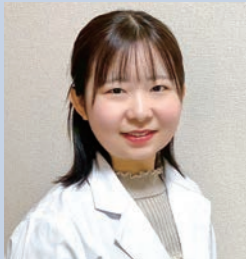
医科学専攻修士課程

医科学、医薬品食品の基礎研究、臨床開発の分野で貢献できる研究者、高度専門職業人を育成

修士課程は、医学部医学科以外の大学卒業生（すなわち学士を取得した人）で、医学研究を希望する学生のために開かれた2年間のコースです。修了生は博士課程に進学、あるいは企業や研究所などにおいて研究開発に携わります。本専攻の特徴は、ヒトの生物学と臨床現場で遭遇する未知の現象や疾患の発症メカニズムを視野に入れ、生命個体をシステムとして解明する研究分野を扱う点にあります。



STUDENT'S VOICE 基礎研究を通して生命現象と疾患の関係を深く理解し、医学の進歩に貢献したい



寺内 佑希
医学研究科医科学専攻
修士課程2年
分子生物学教室
横浜市立大学 理学部卒業

私自身が難病を抱え、未だに有効な治療のない疾患が多く存在することを痛感したため、その課題解決に貢献したいと強く思い、医学研究科を志望しました。本研究科の魅力は、様々なバックグラウンドを持つ教員や学生との交流、そして教室横断的な協力を通して、多角的な視点から研究を実現できる点にあると考えます。私が所属する教室では、遺伝子発現制御に着目し、そのメカニズムや疾患との関係の解明を目指して研究を行っています。新たな知見を共有し、医学の進歩をより一層加速できるよう、今後も研究活動に尽力していきたいです。

■修士論文研究テーマ例

- Bayesian Selection Design for Phase II Clinical Trials
- DNA損傷応答におけるMED26の機能解明
- AFF3遺伝子の生殖細胞系列バリエーションあるいは体細胞モザイクバリエーションを有するKINSHIP症候群の3例
- 死体血を用いた新型コロナウイルスRNA抽出に向けた基礎的研究
- マウス胚性幹細胞から精巢体細胞への分化誘導
- 転写因子IRF5を介したSLE様病態発症に重要な細胞種の同定
- 麻疹ウイルス感染細胞における細胞老化に関する研究
- トリプルネガティブ乳がんにおけるIFN- γ / PD-L1経路とPYK2の役割
- L-DOPA受容体GPR143が神経突起伸長に及ぼす影響およびその機序に関する検討
- 脳内局所回路操作マウスを用いた精神疾患発症の2nd-Hit 仮説の検証

■修了後の主な進路

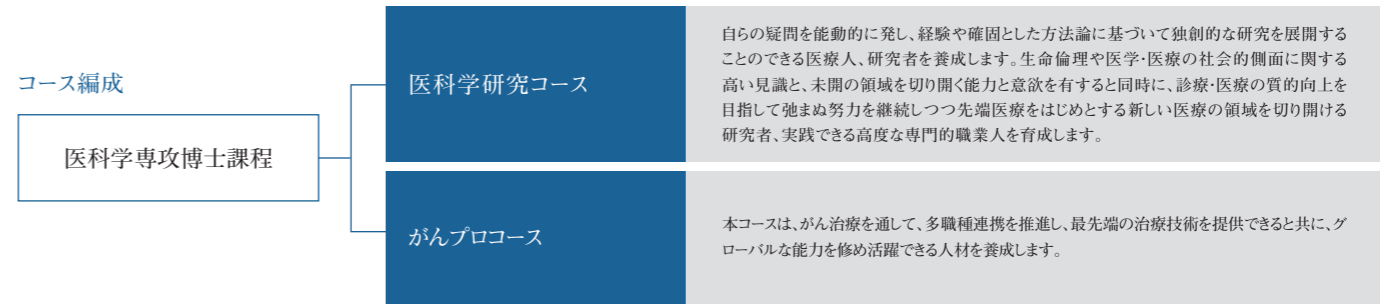
- 【就職】
- アース製薬株式会社
 - キヤノンメディカルシステムズ株式会社
 - グラクソ・スミスクライン株式会社
 - 大鵬薬品株式会社
 - デンカ株式会社
 - 中外製薬株式会社
 - 日本調剤株式会社
 - ライオン株式会社
 - ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社
 - カゴメ株式会社
 - 味の素株式会社
 - 帝人株式会社
 - オリンパス株式会社
 - 富士通株式会社
 - 株式会社日立製作所
 - 全日本空輸株式会社
 - 楽天株式会社
 - 株式会社三井住友銀行
 - 横浜市教育委員会

- 【進学】
- 横浜市立大学大学院
 - 北里大学

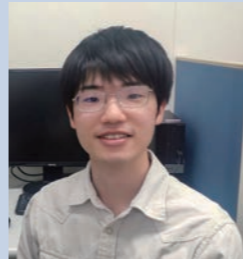
医科学専攻博士課程

医学、医療分野の発展に貢献できる指導者を育成

博士課程は、大学の医学部医学科・歯学部歯学科・薬学部薬学科または獣医学部獣医学科（6年課程）・および大学院修士課程または博士前期課程を修了した方を対象とします。本課程の目指すことは、修士あるいは博士前期課程での取り組みや、臨床現場の経験から発する疑問や発想を発展・深化させ、独自の視点をもとに研究を展開することのできる独創的かつ人間性豊かな研究者・教育者および指導者・高度な専門的医療人を育成することにあります。



STUDENT'S VOICE ゲノム情報を用いた個別化医療を発展させるため、臨床サンプルを用いたゲノム解析を大学院で学びたい



金指 勇樹
医学研究科医科学専攻
博士課程2年 遺伝学教室
東京理科大学
基礎工学部 卒業
横浜市立大学
医科学専攻 修士課程修了

ヒトゲノムが解読された一方で、塩基配列の生物学的な意義は不明な部分が多いです。私はがんをはじめとする疾患でゲノムにどのような変化が起きているかを明らかにしたいと思い、実際に臨床サンプルを取り扱っている大学院への進学を志望しました。現在は遺伝学教室に所属し、連携大学院制度を利用して理化学研究所にて、ゲノムやトランスクリプトーム解析について学んでいます。本学の魅力として、附属病院や研究機関と連携し、希少な検体を用いた共同研究や様々なバックグラウンドを持った研究者との交流ができる点が挙げられます。将来は大学院で学んだことを活かし、個別化医療の発展へ貢献したいと考えています。

■博士論文研究テーマ例

- 免疫細胞におけるAT1受容体結合タンパク質：内臓脂肪型肥満病態における重要な因子である可能性
- S100A8の敗血症死亡率に対する抑制効果：肥満および糖尿病における敗血症リスクとの関連性
- miR-125a-5p/miR-125b-5pは、マウス遠位尿管細胞におけるアンジオテンシンII-AT1Rシグナルの活性化をATRAPの抑制を介して制御する
- Helicobacter pylori*現感染胃がんと過去感染胃がん間で類似していた遺伝子変異プロファイル
- Nogo受容体の内因性アンタゴニストであるLOTUSは、筋萎縮性側索硬化症モデルマウスの表現型を改善する
- 高b値を用いたソフトウェア画像処理後拡散強調画像の胆嚢病変診断における有用性について
- VEXAS 症候群におけるUBAI体細胞バリエーションの検出手法の検討、および臨床的スコアリングシステムの開発
- 乳児の急性肝不全における中枢神経後遺症に関する肝移植周術期のリスク因子の検討
- 培養空間制御がもたらす新生児マウスの半数体形成と体外精子完成の促進効果
- 死後CT画像を用いた真と疑似の頸椎椎管内血腫の鑑別

■修了後の主な進路・所属先（過去10年間の実績）


- 横浜市立大学附属病院
- 横浜市立大学附属市民総合医療センター
- 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター
- 独立行政法人国立病院機構横浜医療センター
- 独立行政法人労働者健康安全機構横浜労災病院
- 独立行政法人地域医療機能推進機構横浜保土ヶ谷病院
- 独立行政法人地域医療機能推進機構埼玉メディカルセンター
- 独立行政法人医薬品医療機器総合機構国立保健医療科学院
- 国立大学法人東京医科歯科大学
- 公益財団法人がん研究会有明病院
- 国立成育医療研究センター
- 一般財団法人脳神経疾患研究所附属南東北がん陽子線治療センター
- 神奈川県立がんセンター
- 神奈川県立こども医療センター
- 横須賀市立市民病院
- 茅ヶ崎市立病院
- 小田原市立病院
- 大和市立病院
- 国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院
- 社会福祉法人恩賜財団済生会横浜市南部病院
- 国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院
- 特定医療法人財団慈啓会大口東総合病院
- 国際医療福祉大学 熱海病院
- NTT東日本関東病院
- エイソーヘルズケア株式会社
- アステラス製薬株式会社



組織学

連絡先 TEL:045-787-2567

成体の幹細胞分化制御機構の解明を目的として、エピジェネティクスを中心とした細胞内在性の制御機構、ニッチに関連した外的シグナルによる制御機構の両面から研究を行っています。



■主指導教員 大保 和之 教授

■指導教員 富澤 信一 講師
尾野 道男 助教
黒羽 一誠 助教

■特別研究科目名 微細形態学


■研究テーマ

- ゲノム修飾(エピジェネティクス)による幹細胞の運命決定制御機構の解析
- 幹細胞の増殖制御とニッチ形成機構の解析
- 無気肺、肺線維症、慢性閉塞性肺疾患の発症機構の解析

神経解剖学

連絡先 TEL:045-787-2571

脳や神経系の解剖学を専門としており、様々な動物の運動や感覚のしくみを調べたり、中枢神経系の再生を目指した研究を行っています。



■主指導教員 船越 健悟 教授

■指導教員 井村 幸介 講師
滝口 雅人 助教
武田 昭仁 助教

■特別研究科目名 神経解剖学


■研究テーマ

- 中枢神経損傷における軸索再生機構の解析
- 中枢神経損傷における代償機構の解析
- 自律神経系の発達機構の解析
- 自律神経系の比較解剖学的解析

循環制御医学

連絡先 TEL:045-787-2575

循環器病学や腫瘍学を中心に疾患のメカニズム解明や治療のための医療機器の開発に幅広く取り組んでいます。ひろく「役に立つ学問」を目指しています。



■指導教員 梅村 将就 准教授
長尾 景充 助手
永迫 茜 助手

■特別研究科目名 循環制御医学

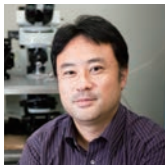
■研究テーマ

- 交流磁場をがん治療に応用した脳腫瘍治療のための医療機器開発(医工連携・産学連携による侵襲のない新しいがん治療装置の実用化)
- 腫瘍免疫におけるPD-L1(Programmed cell Death ligand 1)の調節機構の解明
- プロスタグランジン受容体の1つであるEP4受容体やCa2+チャネルOrai 1の機能解析
- 虚血が脳血管の内皮細胞に与える影響とそのメカニズム解析
- 電子タバコが生体に与える影響とそのメカニズム解析

生理学

連絡先 TEL:045-787-2579

複雑な脳の機能を明らかにしていくことを目的とし、心の働きがどのようなメカニズムで起こっているのかということの研究をしています。



■主指導教員 高橋 琢哉 教授

■指導教員 阿部 弘基 准教授
中島 和希 講師
太田 航 助教

■特別研究科目名 生理学


■研究テーマ

- シナプス機能の制御を利用したリハビリテーション効果促進薬の開発
- AMPA受容体をヒト生体脳で可視化するPET probeの開発
 - AMPA受容体PET probeを用いたヒト精神疾患横断的研究
 - 同probeを用いたてんかん焦点診断補助薬開発を目指した臨床研究・治験
 - 同probeを用いた脳卒中・神経変性疾患の機能代償野同定を目指した臨床研究
 - 新規AMPA受容体PET probeの開発
- ヒトAMPA受容体PETデータに立脚した精神疾患、てんかん、脳卒中回復過程の動物モデル研究

生化学

連絡先 TEL:045-787-2591

細胞シグナルによる転写制御機構と、その異常によるがんなどの疾患の発症機構及び治療薬の開発について、分子構造の視点から研究しています。



■主指導教員 緒方 一博 教授

■指導教員 仙石 徹 准教授
佐藤 光 助教
濱田 恵輔 助教

■特別研究科目名 生化学


■研究テーマ

- 細胞の増殖・分化とその異常としてのがん化、奇形の発生に関する分子機構解析
- 転写因子とエピジェネティック因子による転写制御機構の分子構造的研究
- 転写制御因子に対する分子標的薬の開発
- 遺伝性疾患におけるタンパク質のアミノ酸変異に関する計算科学的解析

分子生物学

連絡先 TEL:045-787-2597

生命機能を司る遺伝子発現制御機構を分子から細胞、組織、個体、疾患レベルまで解明し、さまざまな疾患発症メカニズムを明らかにすることを目指しています。



■主指導教員 高橋 秀尚 教授

■指導教員 廣瀬 智威 講師
鈴木 秀文 助教
堀内 恵子 助教
秋山 智彦 助教

■特別研究科目名 分子生物学


■研究テーマ

- 遺伝子発現において中心的な役割を果たす転写制御機構の解明
- ゲノミクス、プロテオミクス、バイオインフォマティクスを活用した転写制御機構の高精細解明
- 核内構造体構成因子の網羅的同定とその機能解明
- 転写制御因子の分子から細胞、組織、個体レベルまでの機能解明
- 受精卵を用いた転写制御因子の初期発生における機能解明
- 転写制御の破綻によって引き起こされる腫瘍性疾患や神経変性疾患などの疾患発症メカニズムの解明

薬理学

連絡先 TEL:045-787-2593

中枢-末梢連関に着目し、心疾患・癌・アレルギーの新規治療法開発を目指します。



■主指導教員 徳留 健 教授

■指導教員 増川 太輝 講師
小倉 顕一 助教
柴田 智博 助教
吉田 光一 助教

■特別研究科目名 薬理学


■研究テーマ

- 心疾患・癌・アレルギー疾患の新規治療的探索
- ナトリウム利尿ペプチドの臓器保護作用の分子メカニズム解明と治療応用
- ナトリウム利尿ペプチドの中枢神経系に対する作用の解明
- 摂食促進ホルモン「グレリン」の生理・薬理作用解析
- グレリンの中枢神経系・自律神経系に対する作用の解明

微生物学

連絡先 TEL:045-787-2602

自己vs非自己の識別機構と、その異常による生体恒常性の揺らぎを明らかにします。



■主指導教員 浅野 謙一 教授

■指導教員 島田 勝 准教授

■特別研究科目名 分子生体防御学


■研究テーマ

- ウィルス-宿主相互作用を基盤としたウィルス複製機能の解明
- 自然免疫細胞産生をコントロールする病原体由来産物とそのセンサー機構探索
- 炎症性腸疾患の病態形成における制御性単球の役割の解析
- 病原体の免疫回避機構の解明と対抗策開発

免疫学

連絡先 TEL:045-787-2614

免疫細胞の分化や応答の分子機構とその破綻による疾患について、転写因子による遺伝子発現調節の観点から研究しています。



■主指導教員 田村 智彦 教授

■指導教員 西山 晃 准教授
藩 龍馬 講師
奥田 博史 助教
佐藤 豪 助教

■特別研究科目名 免疫学


■研究テーマ

- 免疫細胞特異的エピトープ系細胞(樹状細胞、単球、顆粒球)の分化・応答機構、ひいては免疫系の範囲を超えた基本原理を、転写因子やクロマチンに注目した遺伝子発現制御の観点で解明
- がん(肺癌・子宮癌・白血病など)における腫瘍免疫の分子機構解明と新規がん免疫療法開発
- 自己免疫疾患(SLE など)や拡張型心筋症の病態解明と新規治療法開発
- Jordan Ramilowski 先端医学科学研究センター教授(045-350-4538)
- オミックス特異的NGSデータのバイオインフォマティクス解析
- 木村 弥生 先端医学科学研究センター教授(045-787-2519)
- プロテオーム解析技術開発と疾患関連タンパク質探索
- 笹田 哲朗 連携大学院客員教授(神奈川県立がんセンター臨床研究所、045-520-2222)
- がん免疫療法の開発、バイオマーカー探索やメカニズム解明
- 梁明 秀 連携大学院客員教授(国立感染症研究所、042-848-7060)
- ヒトウィルス感染症の理解や宿主因子の解析

分子病理学

連絡先 TEL:045-787-2587

病理学は研究と診断の両輪からなり、分子生物学的な解析から病理形態の分子基盤が明らかにされ、病理学的な着想が分子生物学的なメカニズムの解明に結びつくと考えて、研究、診療、教育を行っています。



■主指導教員 藤井 誠志 教授

■指導教員 木原 淳 准教授
原田 丈太郎 助教

■特別研究科目名 分子病理学

■研究テーマ

- がんの病理学的研究
- エピジェネティクス、オートファジー、動物モデルを用いた動的メカニズムの解明、臨床・病理協働による新規診断学、病理組織標本から新規病理分類、ゲノム医療等に関する研究
- 婦人科腫瘍の分子病理学
- 連携施設での研究
- 宮城洋平 連携大学院客員教授(神奈川県立がんセンター臨床研究所)

- がんの浸潤/転移/抗がん剤耐性の分子病理学
- がんのバイオバンクシステム

田中祐吉 連携大学院客員教授(神奈川県立こども医療センター病理診断科)

- 小児腫瘍を中心とした小児病理学・分子病理診断学
- 胎児発育不全や先天性疾患の分子病理学的解明



臓器再生医学
創る・造る・作ること(再生)によって理解が進み、さらに良いものを目指して試行錯誤する。再生医学の楽しさと厳しさがそこにあります。
■主指導教員 小川 毅彦 教授
■指導教員 佐藤 卓也 講師 田所 友美 助教 石川 祐 助教
■特別研究科名 臓器再生医学
■研究テーマ ・体外での精子形成法の開発
・ES/iPS細胞からの生殖細胞と精巣構成体細胞の創出
・マイクロ流体システムによるミニチュア臓器の作製(Organ on a Chip)
・iPS細胞を用いたヒト臓器(肝臓、膵臓など)の創出技術および革新的治療法の開発
・ヒト軟骨前駆細胞を用いた軟骨再生治療法の開発
・宇宙環境を活用したヒト臓器創出技術の開発(微小重力環境における3次元組織再構築など)

遺伝学
先端的ゲノム解析手法を駆使してヒト疾患の原因解明に精力的に取り組んでいます。遺伝性疾患等の責任遺伝子を次々と解き明かしています。
■主指導教員 松本 直通 教授
■指導教員 水口 剛 准教授 三澤 計治 准教授 藤田 京志 助教 奥水 江里子 助教
■特別研究科名 遺伝学
■研究テーマ ・様々な希少遺伝性疾患の原因解明・神経変性疾患の原因解明・先端的な遺伝学的解析手法の開発・次世代シーケンス技術(ショートリード・ロングリード)・シーケンス情報解析・オプティカルゲノムマッピング
(理化学研究所連携大学院) 1.がんゲノムおよび免疫ゲノム解析(中川英刀連携大学院客員教授 03-5449-5785) 2.ファーマコゲノミクス(藤田泰誠連携大学院客員教授 045-503-9597) 3.多因子疾患のゲノム解析(桃沢幸秀連携大学院客員教授 045-503-9326) 4.循環器疾患関連遺伝子とバイオインフォマティクス(伊藤薫連携大学院客員教授 045-503-9347) 5.臨床応用を見据えたゲノム統計解析と機械学習(寺尾知可史連携大学院客員教授 045-503-9553)

臨床統計学
基礎・臨床・疫学といった医学研究において、どうデータをとるか(研究計画・実験計画)、どう解析するか(統計解析)の方法論の体系的な研究を行っています。
■主指導教員 山本 絃司 教授
■指導教員 三枝 祐輔 講師 篠田 覚 助教
■特別研究科名 臨床統計学
■研究テーマ ・臨床試験のデザインと解析に関する統計的方法論の開発研究
・バイオマーカーを考慮したベイズ流臨床試験デザインの研究
・実際の臨床試験や疫学研究などを通じた統計学的方法論の応用研究
・レギュラトリーサイエンス上の統計学的課題の解決
・臨床試験のデータ管理や運営体制に対する統計学のアプローチ

法医学
多くの法医学解剖を実施しています。法医学務から想起され、実務に還元できる研究を行っています。
■主指導教員 井濱 容子 教授
■指導教員 福家 千昭 准教授 前田 一輔 助教 田邊 桃佳 助教 國中 光 助教
■特別研究科名 法医学
■研究テーマ ・法中毒学
・法医病理学
・海洋法医学
・死後経過時間に関する研究
・小児の突然死に関する研究
・ウイルス感染症に関する遺伝子解析
・法中毒学
・法医病理学
・海洋法医学
・死後経過時間に関する研究
・小児の突然死に関する研究
・ウイルス感染症に関する遺伝子解析

医学教育学
「次世代の医師の教育はどうあるべきか」をテーマに、基礎から臨床にわたる行動情報科学分野に類する幅広い研究を行っています。
■主指導教員 稲森 正彦 教授
■指導教員 飯田 洋 講師
■特別研究科名 医学教育学
■研究テーマ ・高度情報化社会におけるEBM
・医療面接・医療コミュニケーションに関する解析
・医療倫理・プロフェッショナリズムに関する教育研究
・消化管機能性疾患(過敏性腸症候群など)に関する教育研究
・東洋医学に関する教育研究
・呼吸法を用いた診断に関する教育研究
・臨床研修の各国比較に関する研究
・医用技術のIT化と教育への応用分析
・外部評価・第三者評価に関する教育研究
・教育研究への市民の参加に関する教育研究
・消化管機能性疾患(過敏性腸症候群など)に関する教育研究
・東洋医学に関する教育研究
・呼吸法を用いた診断に関する教育研究
・臨床研修の各国比較に関する研究

公衆衛生学
データサイエンスと疫学手法を応用して、保健医療上の課題に対してエビデンスを創出し、社会に還元することにより、新しい健康社会を実現することを目標としています。
■主指導教員 後藤 温 教授
■指導教員 桑原 恵介 准教授 中山 泉 助教 荒川 裕貴 助教
■特別研究科名 公衆衛生学
■研究テーマ ・横浜市民を対象としたコホート研究(よこはま健康研究)、全国の大規模コホート研究(JPHC Study, JPHC-NEXT)のデータを用いた疫学研究
・全国のレセプト・健診データ、DPCデータ等の大規模データを用いた保健・医療政策の評価等に関する疫学研究
・横浜市などの自治体や国と協働したエビデンスに基づく政策立案に資する研究
・分子疫学コホート研究やUK Biobank等のゲノム情報を用いた疫学研究
・系統的レビューとメタアナリシス、診療ガイドラインに関する研究
・健康行動や受診行動等に関するランダム化比較試験
・若年者の健康に関する疫学研究

血液・免疫・感染症内科学
基礎研究と臨床研究の両面から、血液疾患・膠原病など難治性疾患の分子病態解明と新規治療開発を目指しています。一緒に未来の医療を創りましょう。
■主指導教員 中島 秀明 教授
■指導教員 藤澤 信 病院教授、大野 滋 病院教授、松本 意二 講師、萩原 真紀 講師、桐野 洋平 講師、吉見 竜介 講師、加藤 英明 講師、宮崎 拓也 診療講師、峯岸 薫 診療講師、國本 博義 助教、寒川 整 助教、中嶋 ゆき 助教、石井 好美 助教、仲野 寛人 助教、岸本 大河 助教、土田 奈緒美 助教、副島 裕太郎 助教、勅使川原 晴佳 助教、清田 直樹 助教
■特別研究科名 幹細胞免疫制御内科学
■研究テーマ ・白血球幹細胞の恒常性維持機構の解析
・成人発症自己免疫性疾患の遺伝学的研究
・免疫チェックポイント阻害剤投与患者における免疫関連有害事象の遺伝学的研究
・高リスク染色体異常を有するMDS/AMLの分子病態
・高リスク小児AMLの分子病態
・造血幹細胞・白血球幹細胞におけるミトコンドリア異常の機能解析
・骨髄系腫瘍における遺伝子変異プロファイルの臨床的意義の検討
・骨髄系腫瘍、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫のレジストリ研究
・バーネット病のレジストリ研究
・全身性エリテマトーデスのレジストリ研究

呼吸器病学
最先端の基礎研究と臨床研究により、難治性あるいは標準治療では改善が見込めない病態を有する呼吸器疾患に対する病態の解明、治療法の確立を目指します。
■主指導教員 金子 猛 教授
■指導教員 工藤 誠 准教授、山本 昌樹 准教授、小林 信明 准教授、原 悠 講師、堀田 信之 講師、渡邊 恵介 講師、田代 研助教、寺西 周平 助教、青木 絢子 助教、藤井 裕明 助教、長原 慶典 助教、関 健一 助教、室橋 光太 助教、田中 克志 助教、長澤 遼 助教、久保 創介 助教、井澤 亜美 助教、廣瀬 知文 助教
■特別研究科名 呼吸器病学
■研究テーマ ・合成ODNを用いた肺癌新規免疫療法開発・肺癌免疫療法におけるmiRNAのバイオマーカーとしての有用性・肺癌オルガノイドを用いた抗癌剤耐性機構の解明・肺がん腫瘍細胞へのペプチド免疫反応の検証・線維化を伴う間質性肺疾患における呼吸機能低下進行と血管上皮由来サイトカイン濃度の関連を検討する観察研究・気管支内視鏡による肺がん検出前がん生食食塩水洗浄の検査後感染率低下の有効性、安全性を検討する観察研究・間質性肺疾患における血清、気管支肺動脈洗浄液、中膜オキソゲナーゼ-1値の疾患バイオマーカーとしての有用性の検討・間質性肺疾患の長期予後因子を解明するための後ろ向きコホート研究・特発性肺線維症における抗線維化薬使用実態調査(多施設共同後ろ向きコホート研究)・新型コロナウイルス肺炎(COVID-19)重症化を予測するバイオマーカー開発(単施設研究)・「臨床・疫学」の診療ガイドライン(2019)臨床総論の改訂に向けたエビデンスの構築・新型コロナウイルス感染症の発症に関する遺伝的要因の解明・間質性肺疾患における新規バイオマーカー確立の試み・線維化性間質性肺炎診療における遠隔MDDの有用性の検討および実装化に向けた試み・高齢者喘息における生物学的製剤の有用性・安全性の検討

循環器内科学
虚血性心疾患、不整脈、構造的な心疾患等多くの循環器疾患を臨床・基礎の両面から研究しています。
■主指導教員 日比 潔 教授
■指導教員 石上 友章 診療教授、菅野 晃清 准教授、岩橋 徳明 准教授、細田 順也 講師、小西 正紹 准教授、岡田 興造 准教授、松下 絢介 講師、郷原 正臣 講師
■特別研究科名 循環器内科学
■研究テーマ ・心不全の微小循環障害の関与を明らかにする研究・心疾患患者における糖代謝異常の病態解明と治療法の開発・心不全患者における栄養、体組成、身体活動および薬物治療の効果を検証する・弁膜症に対する経カテーテル治療に関する研究およびトランスカテーテル心臓介入の観察研究・心房細動・大動脈弁狭窄症とアミロイドーシスの関連を明らかにする研究・腸内細菌に着目した動脈硬化研究のトランスレーショナルサーチ・大動脈弁狭窄症に対するPCSK9阻害薬の臨床研究・心不全や肺高血圧の診断・治療方法の確立・最新機器・AIを用いた多分野横断的臨床研究・画像診断を用いた冠動脈疾患の病態解明に関する研究

循環器・腎臓・高血圧内科学
「門戸開放」、「研究重視」、「患者第一」を理念とし、包括的病態連関制御による心血管腎臓病克服のための領域横断的な臨床、教育、研究を展開しています。
■主指導教員 田村 功一 教授
■指導教員 戸谷 義幸 准教授、石上 友章 准教授、平和 伸二 准教授、浦井 広道 准教授、金岡 知彦 診療講師、藤原 亮 診療講師、他助教
■特別研究科名 病態制御内科学
■研究テーマ ・心腎代謝連関病に対する、特定の遺伝子・分子・作用機序を起点とした病態基盤解明と新規治療探索・心腎代謝連関病のレジストリ・EHRデータベース・リアルワールドデータ解析、心腎代謝連関病に対するICT/IgT/PHR活用介入効果検証とEHR、PHR、AIを活用した心血管腎臓病のデジタル医療実用化による健康長寿実現へ向けてのトランスレーショナル研究・心腎連関の病態解明と新規治療開発のための基礎研究から臨床応用への展開研究・シングルセル解析やオミックス解析手法を駆使した心血管腎臓病の病態解明と新規治療創出・受容体直接結合因子、新規血管新生因子に着目した心血管腎臓病の病態解明および革新的治療戦略研究・治療抵抗性の重症動脈硬化症に対する血液浄化療法を応用した血管内皮細胞活性化治療による先進医療戦略研究・心血管腎臓病に対する血圧変動を軸とした包括的治療戦略研究・透析患者における脳心血管合併症の病態解明および革新的診断・治療法の開発・新規血管機能検査の意義に関する臨床的研究・急性循環器疾患に対する先進的画像・機能検査や新規治療の意義に関する臨床的研究

消化器内科学
増加の一途をたどるがんをはじめとし、消化器疾患の診断・治療について先進的医療を提供しています。さらに、その基礎的研究も精力的に行っています。
■主指導教員 前田 慎 教授
■指導教員 沼田 和司 診療教授、中馬 誠 診療教授、平澤 欣吾 准教授、国崎 玲子 准教授、杉森 一哉 講師、三輪 治生 講師、他助教
■特別研究科名 消化器内科学
■研究テーマ ・慢性炎症から発がんへのメカニズムの解明・次世代シーケンサーを用いた消化器がんゲノム解析・がん発生・進展におけるストレス応答シグナルの関与・消化器がん幹細胞の同定とその解析・消化器がん新規マウスモデルの確立・発がんマウスモデルを用いたがんのトランスレーショナルサーチ・機能性消化管異常の診断・治療法の開発・超音波を用いた消化器疾患の新規診断法と治療法の開発・内視鏡を用いたがん診断法の開発と治療法への応用・消化器がん治療におけるバイオマーカーの探索・炎症性腸疾患の病態解明と新規分子標的薬の開発


肝胆膵消化器病学
当教室は消化管・肝臓・胆膵の3つの専門グループで診療にあたり、専門・高度な医療の提供に努めています。また論文発表や国内外の学会での発表を通じて、日本・世界へ情報発信を行っています。
■主指導教員 中島 淳 教授
■指導教員 米田 正人 准教授 細野 邦広 准教授 日暮 琢磨 講師 加藤 真吾 講師
■特別研究科名 肝胆膵消化器病学
■研究テーマ ・消化管機能異常症の研究・大腸癌モデルマウスを用いた腫瘍発生・増大因子の検討・消化器癌の化学予防法の開発・ウイルス肝炎、脂肪肝炎の病態解明と新しい治療法の開発・代謝障害が及ぼす肝細胞癌の病態進展機序の解明・肝細胞癌に対する低侵襲治療・支持療法に関する研究・自己免疫性膵炎の病態解明・先進的な内視鏡診断・治療法の開発・カプセル内視鏡による小腸病変の診断法の開発・Leaky Gutの病態解明・腫瘍局所免疫調節細胞の解析・がんクリニカルシークエンス結果を用いた新規biomarkerの探索・ヒトがんオルガノイドを用いた意義不明遺伝子変異解析・癌性疼痛薬の適切な使用アルゴリズムの開発をめざす研究・緩和医療の現場における死亡診断時の医師の立ち居振舞いについての研究・オピオイド誘発性便秘に対する臨床試験・緩和ケア領域における携帯型腹部エコーの有用性の研究・オピオイドが腸内細菌に及ぼす影響を検討する研究・非がん消化器緩和医療で慢性偽性腸閉塞に対する新規症状コントロール法の開発



内分泌・糖尿病内科学

連絡先 TEL:045-787-2639


糖尿病などの生活習慣病と内分泌疾患の診療を担当、糖尿病の病態解明や新規治療法開発に関する研究を推進しています。未来の医療と一緒に創造しませんか。

 ■ 主指導教員 寺内 康夫 教授	■ 研究テーマ <ul style="list-style-type: none">・β細胞量調節の分子メカニズムの解明とβ細胞量増加薬の開発・2型糖尿病、肥満症、メタボリックシンドロームの成因と病態の解明と治療法の開発・高脂肪食誘導性肥満における糖代謝異常の分子メカニズムの解明・糖尿病治療薬の作用機序の解明・脂質代謝異常の病態の解明と治療法の開発・糖尿病、肥満症、メタボリックシンドロームに関わる臨床研究・疫学研究の企画立案と実行・論文文化
■ 指導教員 富樫 優 講師、京原 麻由 助教 奥山 朋子 助教、新井 正法 助教、 白川 純 客員教授	
■ 特別研究科目名 分子内分泌・糖尿病内科学	

神経内科学・脳卒中医学

連絡先 TEL:045-787-2725


神経変性疾患、神経免疫疾患を中心に、分子病態解明・治療法開発の基礎研究から脳画像解析をはじめとする臨床研究まで幅広く展開し、神経難病の克服に取り組んでいます。

 ■ 主指導教員 田中 章景 教授	■ 研究テーマ <ul style="list-style-type: none">・神経変性疾患の疾患モデル作成に基づく病態修飾療法開発・網羅的ゲノム解析に基づく神経疾患の病因・関連遺伝子の探索・同定・免疫性神経疾患の分子病態解明と新規治療法開発・神経疾患の新規バイオマーカー開発・神経変性疾患の病理学的解析に基づく病態解明・神経疾患の臨床的高次脳機能解析・神経疾患の先端的画像・神経生理学的研究・パーキンソン病に対する脳深部刺激法の臨床研究・経頭蓋磁気刺激を用いた神経疾患の治療法の開発(連携大学院)
■ 指導教員 土井 宏 准教授、東山 雄一 講師、 宮地 洋輔 講師、田中 健一 助教、 高橋 慶太 助教、中村 治子 助教、橋口 俊太 助教、 窪田 瞬 助教、古宮 裕泰 助教	
■ 特別研究科目名 神経内科学	

がん総合医科学

連絡先 TEL:045-787-2623


ヒトの試料を用いたがん研究を広く行いたいと考えています。特に希少がんとして知られる神経内分泌腫瘍に関する研究と一緒に始めてくれる若き研究者を募集いたします。

 ■ 主指導教員 市川 靖史 教授	■ 研究テーマ <ul style="list-style-type: none">・抗がん治療、緩和治療に関わる臨床的研究・がん治療に関わる社会医学的研究・抗がん治療に関わる有害事象のメカニズムに関する研究・神経内分泌腫瘍の診断、治療に関する研究・がんに関わるマイクロRNAに関する研究・神経内分泌癌の悪性度に関係する遺伝子変異についての研究
■ 指導教員 小林 規俊 准教授、 勝田 絵里子 助教、大久保 直紀 助教、 廣島 幸彦 連携大学院客員准教授、窪田 賢輔 教授	
■ 特別研究科目名 がん総合医科学	

外科治療学

連絡先 TEL:045-787-2645


外科全般(消化器、心臓血管、呼吸器、内分泌・乳腺)を包括する教室で、遺伝子などの基礎的研究から臨床研究まで幅広い分野を研究しています。

 ■ 主指導教員 齋藤 綾 教授	■ 研究テーマ <ul style="list-style-type: none">・固形癌全般における病期と予後に関するプロテオミクス及び遺伝子学的研究・遺伝子学的検討に基づいた固形癌に対する臓器横断的創薬研究・抗がん剤治療における多施設共同前向き試験・消化器術後の栄養に関する研究・大動脈瘤発生に関する遺伝子学研究・成人先天性心疾患に関する研究・性差医療を考慮した外科治療・National Clinical Databaseに基づく冠動脈外科治療の質管理に関する研究
■ 指導教員 湯川 寛夫 准教授、禹 哲漢 准教授、菅沼 伸康 講師、 南 智行 講師、青山 徹 講師、風間 慶祐 講師、立石 実 診療講師、前澤 幸男 診療講師、 足立 広幸 助教、沼田 幸司 助教、加藤 綾 助教、内山 義 助教、橋本 至 助教、 松原 由佳 助教、増田 晴彦 助教、小林 由幸 助教、森 佳織 助教	
■ 特別研究科目名 外科治療学	

消化器・腫瘍外科学

連絡先 TEL:045-787-2650


消化器・乳腺腫瘍に関する基礎・臨床研究、敗血症・臓器不全の発症メカニズムの解明にフォーカスしています。

 ■ 主指導教員 遠藤 格 教授	■ 研究テーマ <ul style="list-style-type: none">・消化器癌・乳腺の発生と進展に関する研究・肝切除後肝再生・肝不全の発生機序に関する研究・消化器癌手術における腹腔洗浄液をもちいた Liquid biopsy・消化器癌における免疫回避機構の解明・肝門部外科局所解剖の胆道癌手術への応用・感染性 DIC から MODS への進展機構の解明・癌の進展様式に及ぼす腸内細菌叢の影響の解明・肝門部外科局所解剖の胆道癌手術への応用・感染性 DIC から MODS への進展機構の解明
■ 指導教員 秋山 浩利 診療教授、松山 隆生 准教授、 小坂 隆司 准教授、石部 敦士 准教授、本間 祐樹 講師、 山田 顕光 講師、小澤 真由美 診療講師、中川 和也 助教、 澤田 雄 助教、数下 泰宏 助教、三宅 謙太郎 助教、 菊地 祐太郎 助教、押 正徳 助教、油座 榮 助教	
■ 特別研究科目名 消化器・腫瘍外科学	

麻酔科学

連絡先 TEL:045-787-2918


手術の安全を確保し、痛みから患者さんを開放する麻酔を一手に担うとともに、集中治療やペインクリニック、救急医療、緩和医療も行っています。

 ■ 主指導教員 後藤 隆久 教授	■ 研究テーマ <ul style="list-style-type: none">・急性呼吸促進症候群および多臓器不全症候群の研究・周術期使用薬剤の肺循環系に及ぼす作用の研究・全身麻酔薬の(頭蓋内)脳波による解析・全身麻酔薬の包括的行動評価研究・周術期データベース構築と周術期管理が手術後に与える影響の研究・慢性腰痛に対する手術療法の心理的研究・日本版遠隔集中治療の構築に関する研究・集中治療室におけるデジタルデータ活用に関する研究・周麻酔期看護師導入の医療安全および経済的研究
■ 指導教員 大塚 将秀 診療教授、北原 雅樹 診療教授、 水野 祐介 診療教授、高木 俊介 准教授、佐藤 仁 講師、川上 裕理 准教授、入江 友哉 講師、長嶺 祐介 講師、東條 健太郎 講師、川俣 寛子 講師、岡村 健太 講師、東條 彩子 講師、出井 真史 講師	
■ 特別研究科目名 生体制御・麻酔科学	

救急医学

連絡先 TEL:045-787-2800


救急での臨床から得られた問題点や課題に立脚し、基礎研究、臨床研究(介入・観察研究)を駆使しながら問題解決の糸口を探ります。

 ■ 主指導教員 竹内 一郎 教授	■ 研究テーマ <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)重症化予測と予後規定因子の解明・心停止後心拍再開患者の臓器保護において重要な分子シグナル機序の解明とそれに基づいた新たな治療法の開発・劇症型心筋炎における新たな分子免疫機序の解明とそれに基づいた治療法の確立・難治性心筋症・心不全の機序解明と新たな治療法の開発・敗血症性ショックの病態機序解明と治療法の開発・ARDSの喫煙・炎症因子関連分子メカニズムの解明と新規治療法の確立・ARDSに対するrTMの血管保護作用に注目した分子メカニズムの解明・ウイルス性肺炎における劇症化機序の解明と新たな治療法の開発
■ 指導教員 西井 基継 講師 大井 康史 講師 小川 史洋 講師	
■ 特別研究科目名 救急医学	

脳神経外科学

連絡先 TEL:045-787-2663


脳・脊髄を中心に、腫瘍、血管障害、外相、脊髄変性疾患、小児、機能疾患などを対象として、幅広く中枢神経疾患に関する研究を行っています。

 ■ 主指導教員 山本 哲哉 教授	■ 研究テーマ <ul style="list-style-type: none">・脳腫瘍の遺伝子異常に基づく治療法の開発に関する研究・脳虚血性障害の病態解明と治療法に関する研究・機能再建にむけた神経再生療法に関する研究・画像解析による脳機能局在と可塑性に関する研究・脊髄損傷の病態解明と機能再建に関する研究・てんかん外科学に関する基礎および臨床研究・悪性脳腫瘍に対する粒子線治療に関する放射線生物学的研究
■ 指導教員 立石 健祐 准教授、末永 潤 講師、 中居 康展 講師、佐藤 充 診療講師、高瀬 創 助教、 高山 裕太郎 助教、園田 真樹 助教、大竹 誠 助教、 田中 貴大 助教	
■ 特別研究科目名 脳神経外科学	

産婦人科学

連絡先 TEL:045-787-2691


全国でも有数の診療研究規模を誇る大学病院の産婦人科として、市民、県民に先進・高度な診療を附属2病院で提供。さらに臨床に基づいた研究に若きエネルギーを注いでいます。

 ■ 主指導教員 宮城 悦子 教授	■ 研究テーマ <ul style="list-style-type: none">・婦人科腫瘍の基礎的・臨床的研究・女性生殖器官、生殖機能異常の病態生理学的研究・先天異常モニタリングに関する研究・産婦人科領域における社会医学的研究・産婦人科領域における遺伝医学的研究・子宮筋腫・腺筋症に関する基礎的・臨床的研究・周産期病態医学に関する研究
■ 指導教員 榎原 秀也 教授、 村瀬 真理子 診療教授、青木 茂 診療教授、 葉山 智工 准教授、水島 大一 准教授、浅野 涼子 講師、 小畑 聡一郎 講師、今井 雄一 診療講師、 齋藤 真 診療講師、永井 康一 診療講師、 進藤 亮輔 診療講師	
■ 特別研究科目名 生殖生育病態医学	

小児科学

連絡先 TEL:045-787-2670


胎児・新生児から小児(中には成人まで)の患者を対象に、健診や予防接種などで健康を維持し、また発症した疾患を総合的に治療します。

 ■ 主指導教員 伊藤 秀一 教授	■ 研究テーマ <ul style="list-style-type: none">・急性白血病のゲノム解析、網羅的DNAメチル化解析、トランスクリプトーム解析・急性骨髄性白血病の難治化メカニズムの解明・急性白血病に対する新規候補薬剤の探索およびその効果の検証・免疫不全症、小児リウマチ膠原病の分子細胞学的病態解明・小児膠原病、腎疾患に対する生物学的製剤の作用機序の解明・川崎病と腸管微生物の研究・小児不整脈の病態解明と有効な治療法の開発・学校心臓検診の診療がバライオン作成に関する研究・Population pharmacokineticsを用いた臨床小児薬理学的研究・小児てんかんの病態生理的研究・エコチル調査を用いた疫学研究
■ 指導教員 野澤 智講師、柴 徳生 客員准教授、 辻本 信一 助教、内村 暢 助教 渡辺 重朗 助教、竹内 正宣 助教	
■ 特別研究科目名 発生成育小児医療学	

泌尿器科学

連絡先 TEL:045-787-2679


泌尿器領域疾患を対象として基礎研究・臨床研究・外科治療・薬物治療に幅広く取り組み、よりよい医療の開発を積極的に推進しています。

 ■ 主指導教員 横山 和秀 教授	■ 研究テーマ <ul style="list-style-type: none">・泌尿器科がん(腎、膀胱、尿路、前立腺、精巣など)の発生・進展の分子機構の解明と診断・治療への展開研究・家族性腎癌の遺伝子解析および病態解明の研究・男性内分泌学、生殖医学研究・生殖発生工学、再生医学研究・医工連携研究・動物モデルを用いた排尿機能研究
■ 指導教員 蓮見 壽史 准教授、伊藤 悠城 講師、 村岡 研太郎 助教、伊藤 悠亮 助教、古目谷 暢 助教、 蓼沼 知之 助教、軸屋良介 助教、上村 博司 診療教授、 湯村 寧 診療教授、寺西 純一 准教授、河原 崇司 講師、 逢坂 公人 助教、竹島 徹平 助教、高本 大路 助教	
■ 特別研究科目名	

運動器病態学

連絡先 TEL:045-787-2655

骨、関節、筋、神経の病変を対象とした分野で、これらの組織や器官の外傷、骨軟部腫瘍、変性疾患、感染症などの研究と診療に取り組んでいます。

 ■ 主指導教員 稲葉 裕 教授	■ 研究テーマ <ul style="list-style-type: none">・変形性膝関節症の進行予防に関する基礎的研究・変形性膝関節症における力学的負荷が関節軟骨と半月板に及ぼす影響についての分子生物学的探索・人工関節の形態及び設置位置の最適化に関する力学的解析・骨軟部腫瘍の診断と治療に関する研究・新規薬物療法開発に適した肉腫患者モデルの開発・整形外科感染症に対する分子生物学的診断法の確立・動作解析を用いた運動器疾患の病態の解明と治療方法の模索・CTあるいはMRIによる3次元構築画像の術前計画や術後評価への応用・退行性脊椎疾患の病態解明に関する観察研究・大腿骨近位部骨折に対する予防と治療に関する研究・腱修復のメカニズムと治癒促進に関する基礎的研究
■ 指導教員 熊谷 研 准教授、崔 賢民 准教授、 池 裕之 講師、伊藤 陽平 診療講師、根津 悠 助教、 草場 洋平 助教、山口 泰輝 助教、宮武 和馬 助教、 赤松 智隆 助教、井上 徹彦 助教、片山 裕貴 助教、 中村 玲菜 助教、吉田 智隆 助教	
■ 特別研究科目名 運動器病態学	



形成外科学 連絡先 TEL:045-787-2709
形成外科学では体表の形や機能の回復・再建を行う外科治療を担っています。患者さんのQOL (生活の質) を高めることを目標に、末梢神経再生に関する基礎研究にも取り組みます。
■ 主指導教員 林 礼人 教授
■ 指導教員 北山 晋也 講師、梅田 龍 助教、川端 智貴 助教
■ 特別研究科目名 形成外科学
■ 研究テーマ ・末梢神経再生の促進に関する研究
・人工神経など新規移植材料を用いたより有効な神経再建手法に関する研究
・リンパ管腫の病態と治療に関する研究
・微小血管外科による再建手術に関する研究
・顔面変形や乳房再建に対する培養軟骨や脂肪組織由来幹細胞移植といった再生医療の臨床応用に関する研究
・顔面神経麻痺に対する新たな治療法の開発に関する研究
・血管腫・血管奇形に対する血管内治療のより新有効な治療法の開発
・皮膚軟部良悪性腫瘍に対する効果的な外科的治療に関する研究

放射線診断学 連絡先 TEL:045-787-2696
CT, MRI, 核医学による画像診断およびIVRを行っています。形態・機能診断から分子イメージングまで分野横断的に研究を展開しています。
■ 主指導教員 宇都宮 大輔 教授
■ 指導教員 山城 恒雄 准教授、吉田 啓介 講師、加藤 真吾 講師、松下 彰一郎 講師、岡部 哲彦 助教、小山 新吾 助教、神山 和俊 助教、二本 将明 助教、飯塚 均 助教、加藤 亜結美 助教、石渡 義之 助教、青木 亮 助教、澤村 駿吾 助教
■ 特別研究科目名 放射線診断学
■ 研究テーマ ・心臓血管イメージングにおける CT および MRI の臨床応用
・デュアルエナジー CT の臨床応用に関する研究
・頭部 MRI による脳腫瘍診断に関する研究
・人工知能による画像診断の効率化および精度向上に関する研究
・PET による分子イメージング法の開発的研究

放射線治療学 連絡先 TEL:045-787-2694
悪性腫瘍に対して最先端の高精度放射線治療から緩和照射まで幅広い放射線診療を提供し、先進的な放射線腫瘍学の基礎および臨床研究を行っています。
■ 主指導教員 幡多 政治 教授
■ 指導教員 小池 泉 講師、海洋 久 助教、高野 祥子 助教、杉浦 円 助教、繁永 大輔 助教
■ 特別研究科目名 放射線治療学
■ 研究テーマ ・高精度放射線治療の治療成績に関する臨床的研究
・次世代粒子線治療に関する調査研究
・希少がんにおける放射線治療法の標準化
・RI 内用療法に関する臨床的研究
・悪性腫瘍に対する放射線治療効果予測・評価に関する分子腫瘍学的研究
・四次元解析法を用いた照射精度向上に関する基礎的および臨床的研究
・放射線治療の効果と障害に関する時間・空間・生物学的アプローチ
・放射線生物学に関する基礎的研究
・遠隔放射線治療計画による診療サポート体制の構築
・放射線治療が社会生活にもたらす影響と課題

精神医学 連絡先 TEL:045-787-2667
児童精神科から認知症疾患医療センターまで、こころの病気に関する幅広い診療を行っています。また、これらの病気の病態・予防に関する研究や、社会復帰を支援するプログラムの開発にも努めています。
■ 指導教員 浅見 剛 准教授、野本 宗孝 講師、藤田 純一 講師、井出 恵子 助教、宮内 雅利 助教、服部 早紀 助教、永露 毅 助教
■ 特別研究科目名 精神医学
■ 研究テーマ ・不安症(パニック症)の神経画像研究
・精神疾患の分子生物および薬理学的研究
・自殺対策にかかわる社会的・生物学的要因に関する研究
・音声データによる不安症・抑うつ症の早期発見ツールの開発
・バーチャルリアリティを用いた暴露療法に関する研究
・うつ病を対象とした復職支援プログラムに関する研究
・統合失調症のリハビリテーションプログラムに関する研究
・児童思春期の精神病理の解明と疾病予防に関する研究

眼科学 連絡先 TEL:045-787-2683
大学病院が果たすべき診療、教育、研究の分野に精力的に取り組み、眼科領域全般にわたり、重症疾患患者の受け入れ・治療に専念しています。
■ 主指導教員 水木 信久 教授
■ 指導教員 野村 英一 准教授、山田 教弘 特任准教授、竹内 正樹 准教授、上本 理世 講師、中村 寿太郎 助教、立石 守 助教、黒木 翼 助教、井口 聡一郎 助教、東 花枝 助教
■ 特別研究科目名 視覚器病態学
■ 研究テーマ ・多因子遺伝性眼疾患(近視、緑内障、ペーチェット病、サルコイドーシス、原田病、円錐角膜、網膜格子状変性など)を対象としたゲノムワイド関連解析・遺伝性眼疾患(発達緑内障など)の多発家系を対象としたエクソーム解析・遺伝子改変技術 CRISPR-Cas9 を用いたゲノム編集(標的遺伝子のノックアウト、ノックイン、SNP 置換)による遺伝子機能解析・ゲノム解析で同定した疾患感受性遺伝子のゲノム編集による疾患発症動物モデルの作製・近視患者の大規模臨床疫学データより我々が開発した近視進行予測アルゴリズム(国内および国際特許取得)の検証(患者追跡調査)・多数の近視感受性遺伝子(国内特許取得)の SNP 解析による近視リスク(素因)評価と我々の近視進行予測アルゴリズムの比較検討

視覚再生外科学 連絡先 TEL:045-253-5372
ようこそ、視覚再生外科学へ。網膜の難病の治療の研究を一緒にやりましょう。
■ 主指導教員 門之園 一明 教授
■ 指導教員 井上 麻衣子 准教授、井上 達也 講師、田中 慎 助教、北畑 将平 助教、勝部 志郎 助教
■ 特別研究科目名 視覚再生外科学
■ 研究テーマ ・視細胞、色素上皮細胞の再生機能の評価
・網膜血管内手術の開発
・網膜血管の循環障害の研究
・加齢黄斑変性の先進的治療の開発
・分子標的薬の網膜疾患への臨床研究
・網膜疾患の画像解析
・マイクロサージャリーの先駆的手術の開発
・マイクロロボットの開発の研究

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 連絡先 TEL:045-787-2687
耳鼻咽喉科学は頭頸部疾患の内科外科両面から医療を扱う科です。視覚・嗅覚・味覚といった感覚器と、音声・呼吸・嚥下という重要な生理的機能が集中している領域です。
■ 主指導教員 折館 伸彦 教授
■ 指導教員 西村 剛志 診療教授、畠山 博充 診療教授、佐野 大佑 准教授、荒井 康裕 講師、波多野 孝 診療講師、高橋 秀聡 診療講師
■ 特別研究科目名 頭頸部生体機能・病態医科学
■ 研究テーマ ・頭頸部がんの集学的治療に関する研究
・頭頸部がんの予後予測に関する研究
・頭頸部がん細胞の転移メカニズムの研究
・HPV 関連咽頭がんの遺伝子修飾に関する研究
・切除断端の迅速診断に関する研究
・音声外科手術・嚥下機能評価に関する研究
・難聴の原因遺伝子に関する研究
・アレルギー性鼻炎の診断と治療の研究

皮膚科学 連絡先 TEL:045-787-2675
皮膚免疫疾患、アレルギー疾患、悪性腫瘍を主に扱います。丁寧な臨床から得られる視点を大切に、病態解明や治療につながる研究に力を注ぎます。
■ 主指導教員 山口 由衣 教授
■ 指導教員 渡邊 裕子 講師、渡邊 友也 講師、高村 直子 助教、乙竹 泰助教、石川 秀幸 助教、田中 理子 助教、浅井 知佳 助教、袋 幸平 助教
■ 特別研究科目名 環境免疫病態皮膚科学
■ 研究テーマ ・難治性自己免疫疾患(強皮症、皮膚筋炎、エリテマトーデスなど)の病態解明、免疫制御研究・線維化病態の解明と新規治療開発・乾癬の病態解明、レジストリ研究、および新規治療開発・ステアープンス・ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症などの重症薬疹における重症化因子の解明、免疫制御研究、遺伝子学的研究・アトピー性皮膚炎の発症機序と治療に関する研究・皮膚悪性腫瘍(悪性黒色腫、乳房外Paget病)の治療研究・自己免疫性水疱症の病態と治療に関する臨床研究

口腔外科学 連絡先 TEL:045-787-2659
口腔外科学教室は口腔顎顔面領域に発生した菌性感染症、顎骨骨折、顎変形症、口腔がん、人工歯根など様々な疾患の診療と研究を行っています。
■ 主指導教員 光藤 健司 教授
■ 指導教員 來生 知孝 教授、廣田 誠 准教授、岩井 俊憲 准教授、小泉 敏之 講師、小泉 千里 講師、高須 曜 講師、本田 康二 助教、大屋 貴志 助教、矢島 康治 助教、今井 治樹 助教、北島 大朗 助教、林 雄一 助教、吉井 悠助教、杉山 聡美 助教、石通 秀行 助教
■ 特別研究科目名 顎顔面口腔機能制御学
■ 研究テーマ ・進行口腔癌に対する超選択的動注化学放射線療法の有効性に関する研究・口腔癌、頸部リンパ節転移に対するハイパーサーミアの有用性に関する研究・早期口腔癌における新しいセンチネルリンパ節同定法に関する研究・CAD/CAM ガイドを用いた上顎位置決め法に関する研究・チタンインプラント表面の骨結合強化に関する研究・数値流体力学による歯科口腔外科領域の流体現象の観察・癌微小環境を標的とする治療法の開発・歯周病と口腔癌発症との関連性に関する研究・患者由来口腔癌オルガノイドの確立と薬剤スクリーニング・口腔癌性疼痛発症メカニズムの解明

リハビリテーション科学 連絡先 TEL:045-787-2713
リハビリテーション科学では、疾患などによって低下した身体機能の改善のため、運動を中心とした治療効果や機序解明の研究に取り組んでいます。
■ 主指導教員 中村 健 教授
■ 指導教員 根本 明宜 准教授、梅本 安則 准教授
■ 特別研究科目名 リハビリテーション医学
■ 研究テーマ ・運動効果のメカニズムと効果増強に関する研究
・運動負荷量と必要栄養量に関する研究
・周術期患者に対する運動負荷と栄養負荷の効果に関する研究
・心疾患患者に対する身体機能と効果的な運動療法に関する研究
・ICU 管理患者における身体機能と効果的な運動療法に関する研究
・電気刺激療法の骨格筋への影響に関する研究
・障がい者スポーツにおける競技力向上に関する研究
・心臓血管術後患者における摂食嚥下障害に関する研究

総合診療医学 連絡先 TEL:045-787-2706, 045-350-8865
「総合診療」は古くて新しい分野です。生物・心理・社会の三方向からアプローチする包括的な視点での臓器横断的診療と研究を行っています。
■ 指導教員 太田 光泰 教授、日下部 明彦 准教授
■ 特別研究科目名 総合診療医学
■ 研究テーマ ・問診・身体診察の操作特性についての研究・患者受療行動についての研究・卒前・卒後・セカンドキャリアに対する診断推論教育についての研究・病・診・介護連携における相互学習についての研究・総合内科初診・外来の遠隔診療の適応についての研究・総合診療の社会医学的研究・緩和ケア領域の研究・終末期医療についての研究・多職種連携についての研究・在宅医療についての研究

その他

Table with 2 columns: Research Center/Center Name and Research Themes. Includes RI Research Center, Animal Experiment Center, Medical Information, and Frontier Medical Science Research Center.

協定研究機関・連携大学院

医学研究科医科学専攻 入試結果【修士課程】

年度	課程	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
令和6年度	修士課程	第1期	15	13	13	13	12
		第2期	5	10	10	4	2
		第3期	若干名	3	3	3	3
		合計	20	26	26	20	17

年度	課程	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
令和5年度	修士課程	第1期	15	19	19	17	13
		第2期	5	5	4	2	2
		第3期	若干名	3	3	3	2
		合計	20	27	26	22	17

年度	課程	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
令和4年度	修士課程	第1期	15	21	21	18	16
		第2期	5	4	4	3	3
		第3期	若干名	2	2	1	1
		合計	20	27	27	22	20

医学研究科医科学専攻 入試結果【博士課程】

年度	課程	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
令和6年度	博士課程	第1期	60	47	47	47	46
		第2期	20	34	34	34	33
		合計	80	81	81	81	79

年度	課程	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
令和5年度	博士課程	第1期	60	37	37	37	37
		第2期	20	24	24	24	24
		第3期	若干名	16	16	16	16
		合計	80	77	77	77	77

年度	課程	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
令和4年度	博士課程	第1期	60	42	42	42	42
		第2期	20	35	35	35	35
		合計	80	77	77	77	77

協定研究機関

サンフォード・バーナム医学研究所



サンフォード・バーナム医学研究所は横浜市の姉妹都市であるカリフォルニア州サンディエゴ市に本拠を構える著名なバイオテクノロジー研究所です。YCUとサンフォード・バーナム研究所はMOU(覚書)を締結し、特徴である再生医学、がん、免疫、神経疾患研究分野を中心として、研究者交流および学生派遣を中心とした連携事業の促進を図っています。

カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD)



長年、姉妹校として学部生のサマースクール、語学留学の受け入れ、臨床実習の受け入れなど学部教育では従来より相互的な連携を行ってきました。今後、大学院教育でも研究者交流をはじめ、教育・研究における連携が期待されています。

連携大学院

医科学専攻では、多くの機関と協定を締結し、共同での研究指導、講義を行うなど、双方が連携することにより活発な人的交流、人材育成等を行っています。

量子医科学研究所

がんの最先端放射線治療である重粒子線治療を行う当研究所と包括的基本協定を締結し、研究、教育及び医療に関する協力関係を構築しています。特に重粒子線治療に対応できる医師や臨床放射線技師等の人材育成を目的として、当研究所で知識や技術を学ぶ機会が設けられています。

国立感染症研究所

当研究所は、感染症を制圧し、国民の健康医療の向上を図る予防医学の立場から、広く感染症に関する研究を先導的・独創的かつ総合的に行い、国の保健医療行政の科学的根拠を明らかにし、これを支援することを目的としています。当研究所の研究者と共同で研究指導、講義を行っています。

公益財団法人がん研究会 がん研究所

当研究会は、1908年創立の日本で最も古いがん研究機関です。2005年に移転後、併設されているがん研有明病院と連携のもと、基礎研究から橋渡し研究、臨床研究に至るまで、日本のがん研究の発展に大きな貢献を果たしています。当研究所の研究者と共同で研究指導、講義を行っています。

理化学研究所

2008年度より、当研究所ゲノム医学研究センターとの連携大学院を開始しました。骨関節疾患、アレルギー性疾患、内分泌・代謝性疾患、脳疾患、腫瘍性疾患、循環器疾患等に関わる遺伝性因子の探索、全ゲノム遺伝統計解析法、ファーマコゲノミクスなど数々の最先端の研究を行い、YCUで学位を取得します。

神奈川県立こども医療センター

当センターは、県内全域を所管する小児医療の中核施設であり、特に子供の先天性疾患・難治疾患については、豊富な臨床症例を持っています。この豊富な症例を研究活動等に活かすことにより、小児医療の質の向上、人材育成を推進する役割を果たしています。

医薬品医療機器総合機構(PMDA)

臨床専門医の豊富な知識と経験が必要であったPMDAと、基礎研究を実用化に活かすトランスレーショナルリサーチ(橋渡し研究)を強化するため、臨床研究・治験の解る臨床医の育成を目指していたYCUの思いが重なり、2010年4月、全国に先駆けて連携大学院を発足させました。

神奈川県立がんセンター臨床研究所

当研究所は、がん分子病態学、がん生物学、がん治療学、がん予防・情報学の4つの部からなり、その下部に7つのプロジェクトチームがあります。これらの組織が連携しながら、がんの基礎医学的研究から、トランスレーショナルリサーチ、がんの疫学まで幅広い研究分野に展開しています。

国立国際医療研究センター

当センターは、国際医療協力推進及び高度先進医療を担う第4番目のナショナルセンターとして創設されました。当センターの放射線核医学部門ではYCUの放射線医学教室の主たる研究分野であるPET分子イメージングに関する国際的第一人者のもとで、様々なPET薬剤の臨床研究を行う体制が整えられています。

国立成育医療研究センター

当センターは、厚生労働省の管轄下に置かれる6つの国立高度医療センターの一つであり、わが国の成育医療・研究の最大の施設です。当センターは、病院と研究所の二つの組織から構成され、臓器移植、再生医療、胎児治療、小児集中医療など極めて高度な小児・周産期医療を展開しています。

横浜国立大学市民病院

当病院は33科、650床、3病棟からなり、高度医療・急性期医療を含む地域に必要な医療の提供を行っている横浜市の基幹病院です。2015年3月、YCUは当病院との連携大学院協定を締結しました。大学・病院双方の教育・研究機能や地域医療に携わる人材育成の一層の充実が期待されています。

横浜市立脳卒中・神経脊髄センター

脳卒中・神経脊髄センターは、横浜市医療局が経営する脳神経系専門病院で、神経内科、循環器内科、脳神経外科など9科300床で構成され、脳血管・神経や脊髄の疾患を対象として高度専門医療を行っています。2016年3月、YCUと連携大学院協定を締結しました。

国立精神・神経医療研究センター

精神疾患、神経疾患、筋疾患及び知的障害その他の発達の障害に係る医療並びに精神保健に関し、調査、研究及び技術の開発並びにこれらの業務に密接に関連する医療の提供、技術者の研修等を行うことができる国内有数の機関です。2018年4月に連携大学院協定を締結し、教育・研究活動のさらなる連携を進めていきます。

神奈川県立循環器呼吸器病センター

当センターは循環器・呼吸器病の専門病院として、高度先進医療と救急医療を中心に地域の健康・安全をなす神奈川県内の中核施設のひとつです。特に間質性肺炎では国内有数の患者数であり、超高分解能CT、320列CT、最新の1.5テスラMRIを有しており、呼吸器疾患、循環器疾患を広範囲にカバーできる体制が整っています。

あいち小児保健医療総合センター

愛知県大府市に設置された東海地区唯一の小児専用病院であり、内科、外科系、救急科、集中治療科、産科、精神科、リハビリテーション科、歯科口腔外科などほぼすべての小児に関する診療科を擁しています。多くの診療科が豊富な症例数を背景に優れた臨床力を有し、診療ガイドラインの作成、臨床研究などに積極的に参画し、わが国の小児医療の発展に貢献しています。

国立研究開発法人国立がん研究センター がん対策研究所

国立がん研究センターがん対策研究所は、公衆衛生科学・社会医学的な研究及び事業を担っています。社会のニーズの確に捉え、課題解決に向けた政策提言のため、組織の再構成で2021年9月に開設されました。主にコホート研究分野で教育研究の連携を進めるため、2023年10月、本学と連携大学院協定を締結しました。

国立病院機構横浜医療センター

国立病院機構横浜医療センターは、平成22年4月、横浜市南西部地域中核病院として指定され、現在は33科490床で構成されています。高度急性期病院、災害拠点病院として地域医療に貢献しています。臨床研究にも注力しており、2024年2月、本学と連携大学院協定を締結しました。